CONTENTS

巻頭エッセイ「市民活動をサポート!」 P1

地域の発展を担う企業を目指して
元三フード株式会社
代表取締役社長　谷口 剛さん

おうみ未来塾リレーエッセイ P2

神と仏と命の川、新大宮川を美しく
おうみ未来塾　第13期生「キモチカエル」
新大宮川を美しくする会会長　山本克也さん

特集●未来に向かってつなげる、つづける。 P2~5

■滋賀県発「社会的インパクト評価」の普及促進をめざして
【伴走支援団体の紹介】
●あいとうふくしモール
●特定非営利活動法人あめんど
●淡海ネットワークセンター（おうみ未来塾）

■「こんな生き方ができたらいいな!」を考える
市民活動フォーラム2018を振り返って

市民と企業のChangeにチャレンジ! P6~7

□湖南市国際協会
□大津ヴュルツブルク奏楽会
□竜王西小学校　絵本を読む会「ぽえむ」
□循環型社会創造研究所 えこら

Changeにチャレンジ!応援BOX P8

滋賀でサステナブル社会をめざす市民情報交流誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

おうみネット

淡海 2019 108 Spring

発行日／2019年3月1日
発行所／公益財団法人 淡海文化振興財団

巻頭エッセイ●市民活動をサポート!

地域の発展を担う企業を目指して

元三フード株式会社は、「肉のげんさん」を中心に、21世紀の食生活・食文化の向上と地元近江の発展の一躍を担う複合食品企業を目指しています。

未来ファンドおうみ「げんさん食育NPO基金」を通して、障がいのある子どもたちが健やかに成長していくことをサポートしています。子どもたちが、作物を育て、収穫し、調理をし、食事をする、自分たちで加工した商品を実際に店舗やイベントで販売する等、食への関心を高め、食の楽しさを分かち合う活動を応援しています。

また、毎年滋賀県立アイスアリーナにて開催されるフィギュアスケート競技会「げんさんカップ」を協賛。大会を盛り上げてスケート人口が増えるよう、イベント教室「げんさんフェスティバル」を開催しています。フィギュアスケートに限らず、食育を通してアスリートの心と体の元気を応援しています。

げんさんは今後も「食育」を通して社会に貢献する活動を進めてまいります。

元三フード株式会社
代表取締役社長 谷口　剛さん

Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

特集
未来に向かってつなげる、つづける。

滋賀県発「社会的インパクト評価」の普及促進をめざして

淡海ネットワークセンターでは二〇一八年度、滋賀県との協働で「社会的インパクト評価の普及をめざした伴走支援パイロット事業」を実施してきました。

この事業は、社会的課題の解決に取り組む事業や活動について、社会的な価値を「見える化」して新たな資金調達の仕組みづくりを構築していくことをテーマに着手しました。社会的インパクト評価の普及を目的にした研究会や研修会の開催、そして休眠預金等活用法による民間公益活動として挙げられた3分野において、県下で活動するモデル3団体の伴走支援パイロット事業を行ってきました。

今号では、この一年間行ってきた当事業の背景と目的、そして実施した概要についての特集としています。

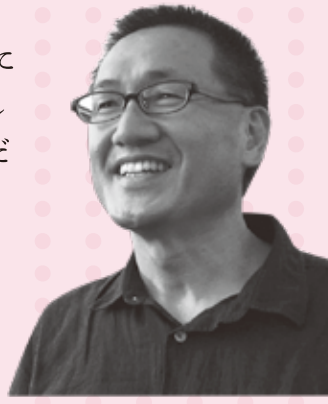
おうみ未来塾リレーエッセイ

神と仏と命の川、新大宮川を美しく

2016年の夏、愛犬と散歩する近くの川の橋の上に、ゴミが散乱する残念な光景を目のあたりにしました。その光景は、次の日もその次の日もそのままでした。「こんな酷い状態なのに、誰もゴミを拾おうとしない。そういう私は・・・」その日から、毎日の散歩時の私のゴミ拾いが始まりました。その年の春、この川の河川愛護団体「新大宮川を美しくする会」を立ち上げたばかりでした。その後、同団体の活動として、近隣の方々とゴミ拾いや土手の草刈り、水質調査、川べりに桜の植樹、川近くの市道街路樹下に春秋に1,000株以上の花苗植えを実施しています。昨年からは、将来ビワマスが遡上したり、アユやコイ、フナなどの生息が増えたりするように専門家に協力をいただき、魚類調査や魚道整備の検討なども始めました。

おうみ未来塾で学んだ地域課題発見、地域資源発掘・発信、合意形成などの様々な手法や経験は、現在の活動に確実に活かされていると思います。

今後は、野草や野鳥、ホタルの専門家をはじめ地元自治会や学校、環境団体、企業、地元の神社やお寺などにもさらに協力、支援をいただき、日吉大社のご神体山の八王子山と日本仏教の母山・比叡山から流れ出る神と仏の川、弥生時代には人々がこの地に住まい、先祖代々命をつながせていただいた新大宮川に感謝し、敬い、この川を日本一美しい川、子どもの頃、私が毎日遊んだような、皆が毎日楽しめる川になるように活動していきます。



おうみ未来塾
第13期生「キモチカエル」
新大宮川を美しくする会会長
山本 克也

本事業の課題と目的について

〈課　題〉

休眠預金等活用法※1が二〇一六年十二月に成立するなど、NPOをはじめとする民間公益活動への資金の流れが変わりつつあります。同時に、国際的な潮流として、主に資金の出し手が事業や活動による社会的な価値の「見える化」を求める傾向にあり、日本においても多様化・複雑化する社会的課題の解決に取り組む事業や活動について、社会的な価値を「見える化」し、民間の資源を呼び込むことで、その事業や活動が成長できる環境を整える必要があるとの認識が広がっていることから、「社会的インパクト評価」※2の必要性がいわれています。

また、休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針（平成三十年三月三十日内閣総理大臣決定）では、休眠預金等の活用に当たっては社会的インパクト評価の実施を前提として制度構築がなされています。

▲左から西村昌弘さん・河合将生さん

〈目　的〉

県下各地域において「社会的インパクト評価」に対する取り組みをどのように進めていけばよいか、また情報収集とともに実践に向けた検討が必要であるとの認識から、次の2点を目的として本事業を進めました。

1. 休眠預金等活用法による民間公益活動として挙げられた3分野（①子ども及び若者の支援に係る活動、②日常生活または社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動、③地域活性化等の支援に係る活動）について、県内で活動する団体からパイロット事業協力団体を選定し、各地域で活動する団体に適用できるモデルを作成し、その実践を求める。
2. 社会的インパクト評価の伴走支援や評価を担うことができる人材を団体内や中間支援組織等に育成する方法の検討につなげる。

本事業の概要について

本事業では、社会的インパクト評価の手法やロジックモデル※3の作成を主なテーマとした研究会（年6回開催）やモデル3団体への伴走支援（各団体7回実施）、そして3団体を対象とした集合研修（年5回開催）を行ってきました。

休眠預金等活用法による民間公益活動として挙げられた3分野における伴走支援パイロット事業協力団体は、次の3団体です。

○特定非営利活動法人あめんど

「子ども及び若者の支援」の分野で活動を展開している団体として選定。

○あいとうふくしモール

「日常生活または社会生活を営む上での困難を有する者の支援」の分野で活動を展開している団体として選定。

○淡海ネットワークセンター（おうみ未来塾）

「地域活性化等の支援」の分野で活動している団体として選定。※4

モデル3団体の伴走支援者には、河合将生さん（office musubime代表）と西村昌弘さん（ならファンドレイジンググラボ代表）に担って頂きました。

また、伴走支援に協力いただいた3団体の活動については、次ページをご覧ください。

次年度事業の実施について

本年度において社会的インパクト評価普及事業を実施してきましたが、評価の意義やその必要性に対する理解、また評価手法に対する情報不足など大きな課題があります。また、社会的インパクト評価においては、短期的に成果が出る団体ばかりではないことから、社会的インパクト評価の概念についての議論も行われている状況にあります。

このような状況を踏まえ、来年度は県下市町の中間支援組織や市民活動団体などを対象にして、本年度で作成した社会的インパクト評価普及のための成果物（報告書・手引書）を活用しながら、社会的インパクト評価について理解を深めるとともに実践に繋げるためのセミナーを開催するほか、県下市町の市民活動支援センターと連携をとり、社会的インパクト評価の学習会や相談会などを開催していくことになっています。

▲研究会の様子

※1　休眠預金＝十年以上、入出金等の「異動」がない「預金等」

※休眠預金等活用法＝民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（平成二十八年法律第一〇一号）

◆出典＝民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律説明資料（平成二十九年　内閣府・金融庁）

※2　社会的インパクト評価＝社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

※社会的インパクト＝短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム

（注）「アウトカム」＝組織や事業のアウトプットがもたらす変化、便益、学びその他の効果
「アウトプット」＝組織や事業の活動がもたらす製品、サービスなど

※3　ロジックモデル＝プログラムに投入される「資源」、「活動」、「アウトプット」、「アウトカム（短期・中期・長期）」の論理的な結びつきを描いたもの。

◆出典＝社会的インパクト評価の推進に向けて（平成二十八年三月　社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ）

※4　伴走支援の活動は、当センターが主催して運営している「おうみ未来塾」を対象としています。

伴走支援団体①
あいとうふくしモール

「あいとうふくしモール ～夢を力タチに、安心を力タチに～」は、「特定非営利活動法人あいとう和楽」、「特定非営利活動法人NPO結の家」、「株式会社あいとうふるさと工房」の3つの事業所で構成されています。

「食」と「ケア」、「エネルギー」が充実した「地域の安心の拠りどころになる」ことを団体の目指す姿（目的）にして活動を展開されています。二〇〇九年五月には、福祉・医療をはじめ環境、農業、まちづくり等、多分野の有志の方が集まり、地域で安心して暮らせるための理想像として「福祉モール構想」を打ち出し、「妄想図」としてまとめられました。

3つの事業所と共同運営する事務局「ほんなら屋」という組織の中で、抽象的なイメージを共有するためには、運営の「見える化」をする必要がありました。

伴走支援が進み、十一月の研究会では、「ほんなら堂」、「若者支援（中間就労）」、「運営委員会の運営」の3つのロジックモデルを発表されました。定性的なものの集め方や見せ方、ロジックモデル作成に当たり工夫されたところ、悩んだところなど、参加者にとっても参考になる部分がたくさんありました。

県外からの視察も多く、「日々の仕事の忙しさに追われ、『振り返る』時間を持てなかった。良い機会になった」と話しておられました。

▲当初に語り合って生まれた妄想図。モールの原点。

▲モールの活動拠点「ほんなら屋」

DATA あいとうふくしモール

設立：2013年
連絡先：滋賀県東近江市小倉町1975-2
TEL：0749-46-2170
FAX：0749-46-2171

伴走支援団体②
特定非営利活動法人
あめんど

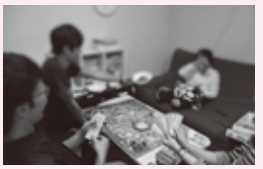
滋賀県大津市で、「親が安心・子も安心」をモットーに、子育て支援・発達支援・学習支援・英会話クラス・各種文化教室・教育セミナーなど、親子のための学び舎として、子どもの成長に寄り添い、ともに学び合って活動しています。

子育て・教育・家庭における問題や課題など「目の前のニーズ」から取り組みが始まった「あめんど」ですが、伴走支援を受ける中で、自団体の活動内容を振り返ることができ、その結果、定款の一部変更までされました。この柔軟さと日頃から自然とはじまるミーティング「コーヒータイム」によるスタッフ同士の意思の疎通があめんどの「強み」でもあります。

あめんどが取り組む受益者に寄り添い変化に対応していく「長期伴走型支援」の活動は、成果を数値で表せるものが少なく、評価をするに当たってどのように測ればいいのか、わからないことがたくさんありました。今回の伴走支援により第三者が入ることで、団体内では当たり前で気が付かなかった「実はすごいこと」や「魅力」が次々と引き出されました。

事業のアウトカム（成果）だけにとらわれず、団体が何を目指しているかを明確に発信していくことで、受益者にとって必要とされる居場所であり続けたいとされています。

▲駄菓子屋バトロール


▲トワイライトステイ

DATA 特定非営利活動法人 あめんど

設立：2011年
連絡先：滋賀県大津市野郷原2丁目3-71
TEL：077-532-3681
FAX：077-532-3681

伴走支援団体③
淡海ネットワークセンター
（おうみ未来塾）

今年は「おうみ未来塾」が始まって二十年の節目に当たります。この間、「地域プロデューサーが育つ塾」として、地域の未来を担う人材育成の場であり続けることを目標としてきました。今回、「おうみ未来塾」のロジックモデルを作成するに当たってのキーワードは「魅力的だから入塾したいと思える」ことにしました。

入塾後のカリキュラムやフィールドワークの感想、グループ活動の実践などの資料は残っていますが、その結果を評価できる客観的な指標はこれまで示されていませんでした。同じように卒塾後の活動の成果や価値を知る情報も、評価できる指標とはなっていませんでした。

人材育成＝人の成長（地域の変化）。このロジックを言語化する難しさに悩み続けながら、ようやくアウトカムまでたどりついた、という感じです。

これまでのおうみ未来塾の成果を評価するために、卒塾生や塾生が関わった地域の人たちを対象にアンケートやヒアリングを実施しました。このアンケート等の結果の分析を行い、新しい時代に合った次世代を担う人材育成の場づくり、魅力ある「おうみ未来塾」に向けて検討を進めてまいります。

▲基礎実践コースのフィールドワーク

▲グループ形成に向けて

DATA 「おうみ未来塾」

開塾：1999年　現在15期生在塾中
卒塾生：1期～14期326名（県内310名/県外16名）
在塾期間：19か月
・現場で理論・手法を学ぶ「基礎実践コース」
・グループに分かれて地域の課題を探り、行動する「創造実践コース」

「こんな生き方ができたらいいな！」を考える市民活動フォーラム2018を振り返って

●日程：2018年10月7日（日）　●参加人数：16人
●基調講演：大津市女性活躍推進アドバイザー…安藤 悦子さん
●パネリスト：社会福祉法人ひだまり理事長 ……永田 かおりさん
らんぷ代表 ……馬場 環さん
子育て応援カフェLoco代表 ……宮本 麻里さん

女性活躍が叫ばれている今の時代において、自分が理想とする生き方を楽しみながらカタチにしている女性が増えてきています。

しかし、家事や子育て、介護など仕事以外の用事も多い女性にとって、「理想とする生き方」をカタチにすることにハードルを感じている人たちが多いのも事実だと思います。

そんな中、「こんな生き方ができたらいいな！」と思っても「今一歩を踏み出せない」、またそのような女性たちに向けて、どんな困難な環境にあっても、誰にでも「自分の理想を生きることができる」という可能性を感じてもらいたい、という想いから、このフォーラムを企画しました。

当日は、まず、参加された皆さんから、どんな思いで参加されたのかをシェアしてもらうことから始めました。

次に、基調講演では、安藤さんから誰もが「自分の理想とする生き方を歩むことができる」可能性があるということを実感してもらえるよう、理想の未来を創り上げるためのステップをわかりやすく話していただきました。

パネルディスカッションでは、パネリストの皆さんからごく普通の女性が、社会のニーズを自分事と捉え、様々な壁を乗り越えながら活動を継続し、自らの役割や居場所を見出している軌跡を語っていただきました。また活動をしていく上でよかったこと、辛かったことも含めて、ありのままを語っていただくことで、参加者よりも一歩二歩先をいく彼女たちの事を、より身近に感じてもらえたと思います。

その後、3つのグループに分かれ、今日感じたことを言語化してもらうということで、感想共有タイムを取り、今日から始める一歩を宣言し合いました。

「悩む前に行動します！」「自信がなかったけれど勇気づけられました！」「今日の出会いを大切に、一歩ずつ進んでいきます！」など前向きな宣言が多数ありました。

今回は参加者のお一人で、栗東市にお住まいの鎌田佳代子さんにお話を伺いました。

①気持ちの変化
参加する前は、自信もなく、やりたいことはあるが、自分に出来るのかな、と不安だったけれど、参加してみて自分も挑戦してみたくなりました。活動されている先輩や、行政の方が「応援したい」と言ってくださったのも心強くて、このフォーラムをきっかけに気持ちにスイッチが入りました。

②行動の変化
勉強会に参加したり、専門の方にアドバイスをもらうなど、積極的に行動ができるようになりました。

③環境の変化
一歩踏み出したことで先輩や、仲間との繋がりができました。世界がすごく広がって、ワクワクすることが増えました。

最後に、「これからも夢の実現に向けて頑張ります！」と力強い言葉をいただきました。

当フォーラムに参加をするという一歩を踏み出したことで、参加者がそれぞれの夢に向かい活動をされていくことは主催者として嬉しいことであります。フォーラムに参加していただいた行政の方にも、続けて参加者のフォローをしていただいており、センターの強みを活かしてこのような繋がりがつくれたことについては、今回の大きな成果になったと思っています。来年度も、当センターでは「社会のため、地域のために何かしたい！」と思っておられる女性を応援できるような事業を予定していますので、楽しみにしていてください！！

最後になりましたが、出演者の皆様、ご協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

（荒堀）

ンジ

ngeに
ンジ！

で活躍する
の「いま」と「これから」
レポートします!

市民

文化振興

音楽を通して伝えたいこと

約20年前より「日独抒情詩と音楽の会」として、神戸・大阪で活動をされていた金子瑞穂さんですが、大津市への引っ越しを機に団体名を「大津ヴュルツブルク奏楽会」に改められました。学生時代にドイツ留学をされていたこともあり、大津市と姉妹都市であるドイツのヴュルツブルクの親善のために、音楽を通して活動をされています。

今年2月には「虹になったパン」という金子さん作の絵本の朗読、ドイツの弦楽器であるヘルマンハープによる伴奏と歌、管理栄養士のお話しによる「読み聞かせと大津に学ぶ食育コンサート」を開催されました。絵本作りやその場面に合う音楽の作詞・作曲も金子さんが行いました。野菜や果物の色には様々な色があり、その色彩は栄養と密接に関係しています。絵本の中ではクマのパン屋さんが焼いた色とりどりのパンが集まって虹になります。その中から当日、数量限定で3色のパンを販売しました。元気なからだをつくる大切な時期に、周りの大人が出来ることのひとつとして「食育コンサートで野菜や果物の栄養を色で覚えることによって、子どもたちに体に良い食べ物を」と金子さんは目を輝かせておられました。

▲ヘルマンハープの紹介

▲数量限定のパン販売

まだまだたくさんやりたいことがあるという大津ヴュルツブルク奏楽会の今後が楽しみです。（森本）

大津ヴュルツブルク奏楽会

●代表／金子　瑞穂　●設立／2011年10月
●会員／約20名
●活動場所／ピアザ淡海 音楽室or和室
第2火曜日10:00～12:00（健康発声体操）
●連絡先／大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津1F
大津市市民活動センター内 No.37
Email: ohtsusogaku@gmail.com

市民

多文化共生

ボランティアを通じ外国人居住者とふれあいながら共生を支援

滋賀県最大の工業団地を抱える湖南市は、外国人居住者の比率が全国的にも非常に高い地域です。こうした環境の中、湖南市国際協会は、地域に根ざした国際交流と多文化共生社会をめざして2007年に発足。その活動は、会員、ボランティア、地域のリーダーに支えられています。

▲日本スタイルのお弁当づくり

協会の主な取り組みは、語学教育、国際文化交流、地域共生、教育支援、広報です。地域共生の活動で、力を入れておられるのが「お弁当づくり」です。子どもが学校給食により日本の味覚に慣れ、親の作る食事を食べてくれなくなったと悩む親の交流の場として「お弁当づくり」は始まりました。

「お弁当づくりへの参加によって自分の作る食事をおいしそうに食べてくれるようになったと喜ぶ親の姿を見ることができ、その瞬間を一緒に共有できることは、事務局にとってもうれしいこと。地域に根ざした近所付き合いを発展させ、子ども、親、地域、そして協会と、強い絆が生まれていくことを望んでいます」と事務局長の鶴衛正義さんは、話してくださいました。

勉強という形ではなく、楽しく学べる体験型のイベントは、お互いを理解し合い、顔の見える関係づくり、継続できる活動につながっていると感じました。（青木）

▲家庭料理教室の打ち合わせの様子

2018年度「ナカザワNEOフレンドシップ基金」助成団体

湖南市国際協会

●代表／甲斐切　稔　●設立／2007年6月
●会員／法人49社、家族43名、個人193名
●連絡先／湖南市中央1-1中央まちづくりセンター1F
TEL/FAX：0748-71-4332
http://konan-ia.org

市民と企業の Cha チャレ

滋賀県内
NPOや社会貢献企業
のチャレンジを

市民

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な循環型社会を目指して

▲エコサークルメンバーによる
エコクッキング

空手で日本を好きになりハンガリーから留学してこられた藤田アニコーさんが、環境に関われる仕事がしたいとの気持ちから就職されたのがリサイクルの会社でした。そこで環境問題に携わっていく中、仲間とともに「循環型社会創造研究所 えこら」を立ち上げ、市民や企業とコラボレーションしながら、琵琶湖の環境保全やエコなライフスタイルを呼びかけています。

▲エコキャンドル作りの様子

「えこら」では、資源ごみの回収に協力してもらうことで琵琶湖の環境保全活動を応援できる「資源寄付プログラム」という仕組みを提供されています。空き缶、ペットボトルなどの資源ごみを、えこらの回収スポットに持っていくことでリサイクルされるとともに、売却収益の一部は「マザーレイク滋賀応援基金」や「未来ファンドおうみ　びわ湖の日基金」に寄付されるというものです。「リサイクルだけでは価値観は変わりにくい。集めた資源を寄付することで琵琶湖の環境保全に役立てたい」と藤田さんは話しておられます。

また「滋賀でESD（持続可能な開発のための教育）を進める会」事務局として他団体と協力し、日本・滋賀のすばらしい文化や知恵、人と自然のつながりの大切さに気付き、残していくための活動も行われています。

「日本の良さを知り、体験し、継承していくことが、日本のためだけでなく、世界のためにもなる。考え方やライフスタイルを意識して変えていくことにより、幸せで持続可能な社会を創っていきたい」と熱く語ってくださいました。（森本）

循環型社会創造研究所 えこら

●代表／藤田　アニコー　●設立／2010年7月
●正会員／7名　応援メンバー：279名（2018年2月現在）
●連絡先／〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山236-1
TEL: 090-3966-8212（直通）
http://ekora.jp/

市民

子育て・教育

読み聞かせと地域の民話の語り部として

▲メンバーと絵本と紙芝居

小学校から保護者への呼びかけで集まった大橋裕子さんをはじめ19名のメンバーで、朝の自習時間の読み聞かせが始まりました。地域で活動しているお話し会のメンバーや、地元のお年寄りも加わり、学年に合わせた1話完結、15分で読み終わる本をメンバーが選んで読み聞かせを行います。

2001年に県の「湖国21世紀記念事業」認定事業として、竜王町鏡に伝わる民話「比良八荒」を大型紙芝居にしました。その後も地域のことを知ってもらいたい、郷土を好きになってもらいたいという思いのもと「ぽえむ」の有志8人で、毎年1作の大型紙芝居を制作しています。「行い」や民話を紙芝居にするため、各集落のお年寄りから話を聞いたり、祭りに参加させてもらったりしているそうです。紙芝居の絵も手分けして描くので「人によって絵のタッチが違うのよ」と見せてくださいました。

▲小学校での朝の読み聞かせの様子

竜王西小学校で開催されるフェスティバルでは、毎年新しい紙芝居をスライド上映していますが、朝の読み聞かせのおかげで集中力が養われ、年々静かに聞いてくれるようになったといいます。

また、支援の団体のおかげで10作の紙芝居が絵本になったことから、小学校や図書館、役場にも置かれるようになり、多くの人に読んでもらえるようになりました。「まだ取り上げていない話もあるので、この活動を継続していきたい」と熱く語ってくださいました。（森本）

竜王西小学校　絵本を読む会「ぽえむ」

●代表／大橋　裕子　●設立／2000年9月
●メンバー／21名
●活動場所／竜王西小学校
●連絡先／TEL: 090-3920-6325

Changeにチャレンジ！ 応援BOX

市民活動を応援する淡海ネットワークセンターの事業をご紹介します。

イベント 2018年度未来ファンドおうみ 助成事業成果発表会を開催します

◇日時：2019年5月18日（土）午後
◇会場：滋賀県立県民交流センター207会議室（ピアザ淡海2階）
※開始時刻の詳細は、当センターホームページをご覧ください。

成果発表団体

■おうみNPO活動基金

団　体　名	事　業　名
ぽてじゃこトラスト	滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ親子自然体験教室
仰木地区活性化委員会	仰木でインバウンド事業　体験型の仰木ステイ

■びわこ市民活動応援基金

団　体　名	事　業　名
神照西部まちづくり委員会	『蚕の里まつり』を中心とした「わがまち」「わが郷土」まちづくり推進事業
国友村塾	国友村塾
近江八幡市子育てボランティアわいきゃきゃ	地域をつなげるあかちゃん食堂事業
エコツーリズム協会しが	滋賀まるごとエコツーリズム推進・プラットホームの構築事業

■びわ湖の日基金

団　体　名	事　業　名
夢・びわ湖	琵琶湖赤野井湾でイケチョウガイの調査育成と市民への啓発活動
葉山川環境美化推進委員会	葉山川環境美化推進委員会
滋賀大学「環境学習支援士」会	未来のびわ湖人育成のための学習支援事業

■積水化成品基金

団　体　名	事　業　名
NPO法人環境と農業の融合を考える会鹿深の杜	環境・景観保全と地域社会の活性化を目指して

■笑顔あふれるコープしが基金

団　体　名	事　業　名
ふるさと玉川「民具を照らす会」	消えゆく民具の保存と継承事業
認知症カフェ「なごみ」実行委員会	認知症カフェ「なごみ」実行委員会
Link+しが	子ども達に伝える!整理収納の楽しさと3Rの実践♪

■ナカザワNEOフレンドシップ基金

団　体　名	事　業　名
特定非営利活動法人長浜市民国際交流協会	ながはまの未来につながる子どもを創る「多文化親子育ちプログラム」
湖南市国際協会	かたことにほんごの外国人とともにつくるまち　こなん

■げんさん食育NPO基金

団　体　名	事　業　名
特定非営利活動法人滋賀自閉症研究会たんぽぽ	自閉症児が楽しく参加できる料理教室
Mom's fun	食でつながる地域の居場所づくり

■湖国文学活動応援むらさき基金

団　体　名	事　業　名
近江八幡市郷土史会	近江八幡市内の神社を網羅した歴史記録書籍発刊および調査事業
幻住庵保勝会	幻住庵の来庵者と市民対象に、芭蕉と近江についての啓発冊子刊行

■びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金

団　体　名	事　業　名
たかしま市民協働交流センター協議会	森と人がつながる「たかしまの森へ行こう!プロジェクト」発信事業

講座 第6回 社会的インパクト評価研究会のご案内

今年度最後の研究会です。ぜひご参加ください。
◇テーマ：本事業の評価と成果
◇日時：2019年3月14日（木）13：30～
◇会場：滋賀県立県民交流センター 205会議室
◇コーディネーター
office musubime代表　河合 将生氏
ならファンドレイジングラボ代表　西村 昌弘氏
◇料金：無料

講座 （仮称）社会的インパクト入門セミナー

◇日時：2019年6月8日（土）13：30～16：30
◇場所：滋賀県立県民交流センター（ピアザ淡海）
◇主催：淡海ネットワークセンター（公益財団法人淡海文化振興財団）
◇講師：今田 克司さん（一般財団法人CSOネットワーク代表理事／認定NPO法人日本NPOセンター副代表理事）
◇対象：社会的インパクトや社会的インパクト評価に興味関心があるNPO関係者、中間組織関係者、行政関係者など
※当セミナーの詳細につきましては、4月上旬頃に当センターのホームページ、メールマガジン、チラシ等でお知らせします。

編集後記

■市民活動フォーラムを企画・運営して、「何か社会のために役立ちたい!」と思っている女性が一歩踏み出せる勇気と行動を、ますます応援していきたいと感じました。（荒堀　順子）

■今回が初の取材。緊張で強張る私が一気に和んだのは、「ようこそ!」と素敵な笑顔と大きな声で迎えてくださったから。「まずは、笑顔で一声!」と湖南市国際協会さん。地域に根ざした活動は挨拶から。（青木　恵美子）

■活動や想いを「見える化」する必要があるのは、日常生活でも言葉にしないと相手に伝わらないのと同じですね。「想い」を持って活動されている方々が想いのまま活動できますようにサポートしていきたいです。（森本　由実子）

おうみネット 淡海2019 108 Spring
Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団
淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■情報交流誌「おうみネット」は登録いただいている県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。（50音順）
関西アーバン銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同組合コープしが、他

〒520-0801　大津市におの浜1-1-20　ピアザ淡海2階
TEL：077-524-8440　FAX：077-524-8442
http://www.ohmi-net.com
E-mail：office@ohmi-net.com
開館日：○市民活動ふらっとルーム／火～土曜日（火～金曜日の祝日は休館）
○事務所／火～日曜日

淡海ネットワークセンターのHPは右記QRコードでご覧になれます。おうみネットやブログ等も掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

VEGETABLE OIL INK　この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。